

初台リハ病院 公式Twitter Instagram 開設しました!!

この度、初台リハビリテーション病院公式SNSとしてTwitterとInstagramのアカウントを開設しました。10月に開設以来フォロワーも少しずつ増加してきました。病院案内や診療に関する情報のほか、院内の取り組みや研修、イベント情報やリクルート情報などの最新情報を適宜発信していきます。病院ホームページ内のリンクや各SNSからも検索すると表示されますので、是非閲覧とフォローをお願いします。まずはQRコードからアクセスしてください。



緑のカーテン&エコノートキャンペーン当選

前回掲載しました、船橋市立リハビリテーション病院で毎年行っているゴーヤの栽培につきまして、9月に船橋市主催の緑のカーテン普及事業「緑のカーテン&エコノートキャンペーン」に応募しました。そしてなんと、見事キャンペーンに当選し、景品をいただきました。エコにつながる取り組みとして行っておりましたが、今回の当選を励みにキャンペーンへの応募も毎年続けていきたいと思っております。



「センターだよりプロジェクトの開催」が100回となりました。

リハビセンターだよりを年に4回刊行しています。充実した紙面をつくるため検討した結果、VOL.11から8ページ版へとリニューアルし、「だよりプロジェクト」の形で、各部門からスタッフも参加をすることで、現在に至っています。プロジェクトでは、各号の完成にむけて3~4回の会議を開催し、内容の提案や意見を出し合っています。令和4年11月30日で100回目をむかえました。これからもより一層内容の充実に向け努力していきますので、どうぞ応援のほどよろしくお願いいたします。



『たいとう地域包括ケアフォーラム』開催報告

11月19日(土)第4回「たいとう地域包括ケアフォーラム」(162名参加)が開催されました。東京大学高齢社会総合研究機構・未来ビジョン研究センター教授の飯島勝也先生に「フレイル予防」の講演をいただき、人生100年時代を元気に乗り切るための日常生活の工夫や、地域の新しい在り方・集い方・コミュニケーションのとり方の意識変容が必要といった、工夫一つでワンランク上の自分を目指していけるというお話で、参加者の方々も前向きな気持ちになっていただけたかと思います。



「共生社会の実現」をテーマに小学校へ訪問しました。

12月初旬に世田谷区内にある小学校からお誘い頂き、リハビリテーションについてのお話をさせて頂きました。5年生の皆さんは「共生社会の実現」をテーマに掲げて活動されているのだそうです。リハビリテーションの説明をさせていただきながら、「子どもたちでもできること」「今からでもできること」を一緒に考えました。児童の皆さんからは沢山の意見があり、私たちにとっても驚く事も多く、非常に有意義な時間となりました。



季刊情報誌「輝NET」 編集発行 医療法人社団 輝生会 本部/〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-9 5F <https://www.kiseikai-reha.com>

初台リハビリテーション病院 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-53-3 TEL.03-5365-8500 <https://www.hatsudai-reha.or.jp>
 船橋市立リハビリテーション病院 〒273-0866 千葉県船橋市夏見台4-26-1 TEL.047-439-1200 <https://www.funabashi-reha.com>
 船橋市リハビセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL.047-468-2001 <https://www.funabashi-rehacen.com>
 在宅総合ケアセンター元浅草 〒111-0041 東京都台東区元浅草1-6-17 TEL.03-5828-8031 <https://www.motoasakusa-reha.com>
 在宅総合ケアセンター成城 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-8-7 TEL.03-5429-2292 <https://www.seijo-reha.com>

本誌へのご意見ご要望はメールにてお寄せください。 contact@kiseikai-reha.com



年頭のご挨拶



医療法人社団輝生会 理事長 水間 正澄

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。昨年も新型コロナウイルスの感染拡大による影響を大きく受けた1年となりました。国内外では経済活動や日常生活が大きく制限されてきましたが、当法人においても日常の診療において、感染の発症や対策に伴い、患者さま・利用者さまにも様々なご不便・ご迷惑をおかけいたしました。職員の皆さんには厳しい行動制限をお願いいたしました。日頃から培われてきた強いチーム力とそれぞれの創意工夫により、厳しい状況を乗り越えることができたと思っております。皆さまのご協力・ご尽力に心より感謝申し上げます。

当法人は2年前に新しい運営体制をスタートさせ、質の高い医療(直接的活動)、地域活動(間接的活動)の Twin Track Approachを意識し、各拠点において連携強化や地域包括ケア推進などの取り組みなどを進めております。困難な状況下ではありますが、着実に成果が上がっている状況を大変心強く思っております。オミクロン株に対する警戒を緩めることは出来ませんが、社会活動は徐々に回復の方向へと向かい始めており、新たな行動様式や社会の在り方が形づくられつつあります。新しい日常のなかで、職員の皆さんがそれぞれの現場で力を発揮されることを期待しております。最後になりますが、新型コロナウイルスに罹患された方々、並びにご家族さまに心よりお見舞い申し上げます。本年が、皆さまにとって素晴らしい年でありますよう祈念して、年頭の挨拶と致します。

輝生会では職員の質向上に寄与するためにeラーニングを導入しています。

輝生会の eラーニングには、セコム医療システムの提携病院が共通で利用できる「セコム提携医療機関 eラーニング」と輝生会職員が独自に使える「輝生会 eラーニング」があります。「セコム提携医療機関 eラーニング」には、感染対策や医療安全対策、ハラスメント防止等のコンテンツ、セコム医療システム主催研修として参加している「ケアリン研修(医療の場における倫理的課題を検討する事例検討研修とそのファシリテーター養成研修)」に使う資料等が掲載されています。輝生会独自の「輝生会 eラーニング」には、輝生会の「共通研修」に使う講義を収録し、予習・復習が可能です。共通研修とは輝生会の常勤職員全員が受講する階層別の研修で、輝生会の「理念」と「チームアプローチ」の2点を強化するための研修です。特に毎年5回開催される「輝生会研究発表会」で、全国からお招きする第一線の講師による講演や輝生会の管理職の講演も「おすすめコンテンツ」として収録しています。また、2021年5月に逝去した会長の石川誠の過去の講演動画も幸いなことに複数残っておりますので、今後永く視聴可能とし石川誠のマインドの伝承に役立てていく予定です。今後も、自宅からでも通勤途中でも学びができるツールとして各専門職教育で使っている講義を格納するなど内容を充実・拡大し、職員の糧となる学びのデータベースとしていきたいと考えています。

文責 人財育成局 取出涼子



輝生会の基本理念と方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「人間の尊厳」の保持 ■ 「主体性・自己決定権」の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「地域リハビリテーション」の推進 ■ 「ノーマライゼーション」の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「情報」の開示
輝生会における患者さまの権利	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人権を尊重される権利 ■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最善の医療を受ける権利 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自らの意思で選択・決定する権利 ■ プライバシーの保護を求める権利

「人間石川誠を語る」発刊に向けて

石川誠会長がご逝去され、1年半が経過しました。この間、石川会長を偲び多くの方々から追悼の文章を頂戴しております。追悼の文章を拝読し、改めてその偉大さを日々感じているところです。



石川会長の功績は、初台リハビリテーション病院・船橋市立リハビリテーション病院で提供している「多職種がチームで関わり、日常生活に障害がある患者様を早期に回復させ、社会に復帰させる回復期リハビリテーション病棟」を、国の制度にしたことです。また退院後を支える在宅総合ケアセンター元浅草・成城などの在宅サービスの複合拠点の構築を、全国に先駆け示してきました。

この石川会長の功績について、師匠である兵庫県総合リハビリテーションセンター名誉顧問の澤村誠志先生、盟友である小倉リハビリテーション病院名誉院長浜村明憲先生のお二人が監修者となり、「人間石川誠を語る」として書き著すプロジェクトが立ち上がりました。リハビリテーション医療をリードする70名に及ぶ方々に寄稿していただきました。



第1章に、日本福祉大学名誉教授の二木立先生が、回復期リハビリテーション病棟の創設までの過程と功績を、関連する膨大な文献や資料を基に書き著しています。



第2章は、若き頃の石川誠の章となっています。①群馬大学時代、②研修医として赴任し、この先の生き方を変えた若槻俊一先生と出会った長野県佐久総合病院の時代、③リハビリテーション医療への思いや夢を固めた虎の門病院分院時代に分け書かれています。



第3章では、全国から近森モデルと呼ばれた仕組みを、夢の実現に向け苦難に立ち向かい、一緒に構築した仲間が当時を振り返り書き著しています。



第4・5章では、元浅草・成城の在宅総合ケアセンターの前身になる診療所の開設、初台リハビリテーション病院開院までと開院後の取り組み、船橋市立リハビリテーション病院指定管理への挑戦などその活動や状況を、石川会長が医療法人社団輝生会の発展に尽力したことを当時の幹部メンバーが思い出と共に書き残しています。



第6章では、元厚生労働省高官の方々や、石川会長が参加していた団体の役員各位から、石川会長の業績を裏付ける証言をご執筆いただきました。



第7章では、石川会長が立ち上げた輝生会クロスカントリーの活動状況や、晩年楽しんでいたアユの友釣りの様子など、人間石川誠を異なった角度から書き著しています。



最終章では、奥様の石川陽子様から夫石川誠の生前から死に至るまでの生き様を書きおろしていただきました。



このように、石川会長が50年前に医師を目指し、脳外科からリハビリテーション医療に目覚め、回復期リハビリテーション病棟の創設という歴史に残る偉業を達成するまでを書籍化しています。専門家だけでなく、一般の方が読んで石川会長の生きざまに触れることができる本になっています。2023年2月中旬発刊を目指しています。

理事長補佐 森本 榮

自宅でできる簡単嚥下食・レシピ

嚥下食とは、嚥む力や飲み込む力など食べる機能が低下した方でも、安全に食べられるように食材の大きさや形態を調整した食事のことです。食べる機能に応じて適した食形態は異なりますので、適した食形態がわからない場合は、医師に相談をしてください。今回紹介するレシピの食形態は、ソフト食(舌と上あごで押しつぶすことができる固さ、口の中でまとまりやすい食事)です。市販の介護食品の分類では、UDF(ユニバーサルデザインフード)の「舌でつぶせる」「歯ぐきでつぶせる」と表示のある食品が該当します。



ハンバーグ

(ハンバーグたね)

玉ねぎ 1/4個

A { 合い挽き肉 60g パン粉 小さじ 1/2 卵 小さじ 1 食塩・こしょう
トマトケチャップ・赤ワイン 各小さじ 1/4 片栗粉 小さじ 1/4
とろろいも(冷凍市販品が便利です) 大きじ 1/2

(ソース)

B { ビーフシチューフ레이크 小さじ1
赤ワイン・トマトケチャップ 各小さじ1
水 1/4カップ とろみ剤 小さじ 1/4

●作り方

(ハンバーグを作る)

1. 玉ねぎをみじん切りにし、サラダ油で炒め、余熱をとる。
2. ボールにAの材料と玉ねぎを入れ粘りがでるまでよく混ぜる。
3. 2をまとめて二等分し、楕円のハンバーグの型に丸める。
4. 蒸し器で強火で20分蒸す。

(ソースを作る)

5. Bの材料を鍋に入れ、かき混ぜながら一煮立ちさせる。鍋を火から下ろし、とろみ剤を加えながら攪拌する。
6. 器に4のハンバーグを盛り付け、ハンバーグの上から5のソースをかける。

病院では普通食のハンバーグたねを使用し、ソフト食の軟らかさになるように調理しています。ご自宅でも、いつものハンバーグを軟らかくすることで作る方の負担を軽くすることをおすすめします。

ポイントは2つあります。

- ① 加熱前のハンバーグたね 60g(1個)あたり、とろろいも大きじ1/2杯、又は水大きじ1杯混ぜる。
- ② ハンバーグたねの材料は、低い温度で粘りがでるまで混ぜることで、加熱時に水分を保持し軟らかくなります。



ほうれん草と人参のお浸し

ほうれん草 50g 人参 10g

醤油 小さじ 1/2 みりん 小さじ 1/3 とろみ剤 小さじ 1/5

●作り方

1. ほうれん草は繊維をたつように、1センチ幅にカットする(茎部分も入れても可)。人参は1センチ大の乱切りにする。それぞれをスプーンでつぶせる硬さまで軟らかく茹でる。
2. ほうれん草と人参をザルにあげ水分を良く切り冷ます。
3. 冷めたほうれん草と人参は醤油とみりんで和える。最後にとろみ剤をまぜ、離水がなく口の中でまとまりやすい形態にする。

今回のレシピはほうれん草と人参ですが、葉物野菜や根菜類は同じ切り方でどの食材でも代用可能です。

野菜を軟らかく茹でるコツを2つ紹介します。

- ① 圧力鍋があれば、圧力鍋で茹でると良いです。
- ② 0.7%の重曹水で茹でると軟らかく色よく仕上がります。(水1リットルに対して食品用重層大きじ 1/2 杯で 0.7%の重曹水ができます。)